

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 1 日現在

機関番号：32704

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2014～2015

課題番号：26893296

研究課題名(和文) マグネット訪問看護ステーションの成功要因の探索

研究課題名(英文) Search of the success factors of the magnet visit nursing station

研究代表者

藤井 千里 (Chisato, Fujii)

関東学院大学・看護学部・助教

研究者番号：80737651

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、マグネット訪問看護ステーションの成功要因を明らかにすることである。調査対象者は、各都道府県の介護情報公表システムを用いて作成した岩手県、宮城県、福島県を除く訪問看護ステーション全8,226カ所(2015年3月時点)のうち、2分の1を無作為抽出した4,113件の訪問看護ステーション管理者とした。調査内容は、訪問看護ステーションの属性、管理者の属性、管理運営体制に関する項目を尋ねた。結果、実施している管理運営項目数が多いほど黒字傾向であった。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this research is to clarify the success factors of the magnet visit nursing station. An investigation object was created by using the nursing information publication system of each prefecture. Out of the total 8,226 visiting care stations except for Iwate-Prefecture, Miyagi-Prefecture and Fukushima-Prefecture (as of March, 2015), it was a visiting nurse station administrator of the 4,113 sites that were randomized extracts the half. The investigation contents asked the attribute of the visiting care station, the attribute of the administrator and the item about the management system. As a result, a station with a lot of management number of items which is being carried out was the surplus tendency.

研究分野：在宅看護学

キーワード：訪問看護 訪問看護ステーション 管理運営 マグネット

1. 研究開始当初の背景

医療制度改革が激変する中、在宅医療体制の整備は喫緊の課題である。医療提供体制の改革ビジョンや平成 24 年「在宅医療・介護推進プロジェクト - 新生生宅医療・介護元年 -」の「在宅医療体制構築に関する指針(案)」の中で、訪問看護ステーション(以下、ステーション)の充実・普及が掲げられており、在宅医療推進には、ステーションの存在が欠かせない。

しかし、訪問看護制度が創設されてから 20 年余りが経過した今日、ステーション数の伸び悩みについての諸問題が明らかにされ始めている。その一方で、成果を出し、安定した運営を行っているステーションも存在する。利用者や家族、スタッフ、地域を引きつけているマグネット訪問看護ステーション(以下、マグネットステーション)が紹介されているものの、マグネットステーションにおける一般化された経営管理体制については、明らかにされておらず、先例研究もほとんどない。

近年、マグネットホスピタルについては国内外で多くの先行研究が報告されている。マグネットホスピタルとは、「高い職務満足を示し良質のケアを提供できる看護師を引きつけ定着させる病院」として、アメリカ看護協会の一組織であるアメリカ看護アカデミーが実施した研究プロジェクトで紹介された。人材確保・定着の成功例として米国でのマグネットホスピタルの取り組みやマグネット認証プログラムを紹介する論文、学会でのシンポジウム、雑誌での座談会記事等でマグネットホスピタルがテーマとして取り挙げられている。マグネットホスピタルの特性として「適切な看護職員配置」「参加型・支援型の管理方式」「柔軟な勤務スケジュール」等がある。米国では、このような病院特性から Essentials of Magnetism (EOM) や Nursing Work Index(NWI)、Nursing Work Index-Revised(NWI-R)等の測定尺度が開発され、日本語版も開発されている。

それに比べ、ステーションにおける先行研究の多くは、訪問看護の質向上・質保証についての看護技術的な記述が中心であり、管理者を支援する基準に関する研究は少ないのが現状である。訪問看護の場合、その管理・運営の特徴として、訪問看護ステーション管理者(以下、ステーション管理者)が“最終責任者”と位置づけられている点が施設内看護と大きく異なる。ステーション管理者の管理能力には、ばらつきが大きく、運営に大きな差が生じている。中には、経営上の理由によりステーションを廃止せざるをえない者も少なくない。その一因に、効果的な管理行動に関する知見が少ないことが挙げられる。そこで、今

後ステーション数を増やしていくために、マグネットステーションの成功要因を抽出し、管理者教育に生かす基礎研究を蓄積する必要がある。

2. 研究の目的

本研究の目的は、マグネット訪問看護ステーションの成功要因を明らかにすることである。

3. 研究の方法

1) 対象

各都道府県の介護情報公表システムを用いて作成した岩手県、宮城県、福島県を除く訪問看護ステーション全 8,226 カ所(2015 年 3 月時点)のうち、2 分の 1 を無作為抽出した 4,113 件のステーション管理者とした。岩手県、宮城県、福島県の 3 県を除いた理由は、平成 23 年 3 月 11 日に起こった東日本大震災から 5 年が経過したが、事業所の減少や人口流出など、未だその爪痕が残っている。そのため、東日本大震災で甚大な被害を受けた被災地に設置されているステーションは本研究の調査対象から除外とした。

2) 調査機関

平成 27 年 8 月～10 月

3) 調査方法

調査用紙を抽出選定した 4,113 カ所のステーション管理者宛に郵送し、無記名による自記式質問紙調査を行った。調査の回答は、調査の承諾が得られた対象者から個別に直接郵送にて回収した。

4) 調査内容

ステーションの概要

開設年数、設置主体、24 時間体制、機能強化型訪問看護療養費算定の有無、在宅療養支援診療所との連携の有無、従事者数、従事者の在職年数、従事者の保有資格、従事者の充足度、利用者数、延べ訪問回数、実習生・研修生の受け入れの有無、運営状況、収支状況を尋ねた。

ステーション管理者の属性

年齢、臨床経験年数、訪問看護師経験年数、管理者経験年数、最終学歴、管理者に至る経緯、経営管理に関する学習経験、財務管理・利用者確保・人材確保の主たる実施者について尋ねた。

管理運営について

管理運営体制の項目を検討していくにあたり、訪問看護の質保証と経営の安定を図っていくために開発された訪問看護サービス質評価のためのガイドライン(以下、ガイドライン)、ナースのための管理指標 MaIN2(以下、MaIN2)、訪問看護ステーションにお

る安定的な経営管理のための自己評価尺度が、本研究に参考になる資料と考えた。

ガイドラインは、利用者に選ばれるステーションとなるため、これまで以上にサービスの質の保証および向上が必要であるという観点から開発され、訪問看護機関・施設の機能評価と訪問看護サービス評価の2部構成となっている。本研究では、訪問看護機関・施設の機能評価を参考にした。その理由として、このガイドラインを基に日本訪問看護振興財団がコンサルテーション事業を行い、経営状態を改善している実績があることから、管理運営指標を作成していく上の参考になると考えた。

MaIN2 は、計画、動機づけ、教育、コミュニケーション、組織、アウトカムの6つカテゴリー、48項目で自己評価するようになっている。実施している、あるいは、アウトカムの状況のレベルを5段階で評価する内容となっている。この指標は、病院の規模によらず、簡便に自己評価ができることが利点として挙げられる。しかし、ステーションでの活用となると、訪問看護に特化した内容を盛り込んでいく必要がある。

安定的な経営管理のための自己評価尺度の開発は、ドラッカーの経営管理の視点が用いられている。マーケティング、イノベーション、生産性、資源と資金、利益、マネジメント能力、人的資源、社会的責任の8領域の観点で開発され、快適な職場環境の形成、資金の管理、サービスの拡充、利益の確保、生産性の向上、看護の質保証、市場調査の7下位尺度、25項目で尺度が開発されている。

以上、既存の資料の共通点は、何をしているかという、すべきことは記載されていること、そして、自己評価方式となっている。しかし、訪問看護の伸び悩みの要因を解決するための財務管理や人材確保、利用者確保に関する視点が十分に網羅されていないことが明らかとなった。

そこで、質問紙の作成にあたっては、質の高い訪問看護を提供するには管理・運営を整えることが重要であるというガイドラインの訪問看護機関・施設の機能評価を土台とし、先行研究や参考図書から抽出した効果的な管理行動に関する項目と、研究者とスーパーバイザー間で議論を行い、安定した運営に必要なと思われる項目を検討した。その結果、179項目の原案を作成した。項目の検討には、以下の点に留意した。ガイドラインでは、経営戦略については2項目、職員確保に関する項目は1項目、利用者確保については1項目しかなく、財務についての項目は設けられていない。そのため、財務管理、人材管理、利用者確保に関する内容の充実を心がけた。また、ガイドラインの内

容を見ると、1つの項目に複数の内容を含んでいるもの、記載内容が抽象的で自己評価ガイドラインの補足を読まなければ回答できない項目があった。回答することの困難性を緩和するために、管理者が悩まずに回答できる表現を心がけた。

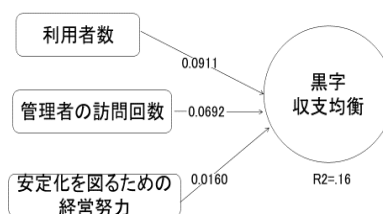
5)倫理的配慮

調査対象者に研究の趣旨、目的、プライバシーの保護、調査への参加は自由意志であることを文書で説明した。調査は無記名で、回収は個別に郵送にて行った。調査用紙の返信をもって本研究に同意を得られたものとした。

4. 研究成果

4,113通中、宛名不明が59通であった。調査用紙の回収数は、372カ所(回収率9.2%)であった。

マグネットステーションについての明確な定義はないが、スタッフの定着がよいこと、質の高い看護の提供をしていること、地域から信頼されていることに該当するステーションとして、看護職員数5名以上、利用者数が70名以上、機能強化型訪問看護管理療養費を算定しているステーションをマグネットステーションと位置づけて分析を行った。



結果、利用者数が多いほど、管理者数の訪問回数が多いほど、安定化を図るための経営努力を行っているほど、黒字もしくは収支均衡という傾向にあった。安定化を図るための経営努力の具体については、「毎月の収入と支出を把握している」「事務所代、設備・備品、人件費等、運営に必要な経費を予算に計上している」「予算上の収入は、確実に得られる金額に設定している」「予算にあげた必要経費以上の収入を予算上、見積もっている」「長期的展望で必要な経費を考慮した予算を立案している」「予算にあった常勤・非常勤の採用バランスとなっている」「目標利用者数は、予算達成できることも考慮している」「毎月の新規利用者が終了者を上回るように営業活動を行い、調整している」「利用者全体のニーズと職員のスキルを考慮し、看護の質保証、継続、効率性が最大となる提供体制となるように定期的に見直しをしてい

る」「訪問看護実績を地域の医師、ケアマネジャー、病院の連携室に説明する機会を設けて説明している」「地域の医療保健福祉の要となっている機関(医師会、看護協会、行政、各種協議会、市町村等)にステーションについて理解してもらうように連携をとっている」「地域のステーションと連携をとっている」「利用者や家族に看護提供場面で判断した結果や今後予測される症状、対処の根拠などを説明することも営業場面であることを職員に伝えている」「ステーションの知名度向上に向け、職員に外部での発表や講演を推進している」「収支状況を評価・分析している」の実施割合が高い傾向にあった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計0件)

〔学会発表〕(計0件)

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

○取得状況(計0件)

〔その他〕

ホームページ等

特になし

6. 研究組織

(1)研究代表者

藤井千里 (FUJII, CHISATO)

関東学院大学・看護学部・助教

研究者番号：80737651